

建国高等学校

生徒会・SDGs

住吉区「外国人向け防災パンフレット」作成

高校生ボランティア・アワード2022

「外国人向け防災パンフレット」

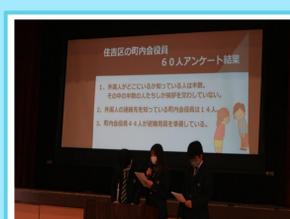
活動概要

私たちが通う建国高等学校は、在日韓国人子弟の学校として創設されました。今では約60%が日本籍の学生で、残り在日韓国人の学生や、留学生も一緒に勉強し、多様な文化や言語が日常的に飛び交う学校です。

住吉区に住む外国人にスポットを当て、要援助者になるのではなく、被災時に自助ができるようになってもらおうと考えたのが、「外国人向け防災パンフレット」の作成でした。

住吉区の災害に特化したパンフレットで、日本語・英語・中国語・韓国語の4か国語を使える学生も多く在籍する本校ならではの活動です。

区役所と町内会の皆様からも援助を受け、在住する外国人の助けになるため、活動に取り組みました。



「キャッチコピー」

①「私たちは日本に住んでいる外国人と共に生きている！
支えあうべき仲間として、誰も取り残さないことを誓います!!」

②地域を守る「防災士」
自分を守る「防災・志」

③日本語・韓国語・英語・中国語の4か国語を駆使し、被災時に安心して外国人が避難できる学校に。
そして先生だけに頼らない、高校生が受付・誘導・援助ができる学校に。

「活動目標と実績」

「外国人向け防災パンフレット」の作成にあたり、台風・地震・津波・火災の4つの災害に分け、それぞれ、日本語・韓国語・中国語・英語の4か国語（計16種類）でパンフレットを作成しています。

日本では一年に平均約26個の台風が発生しています。台風により大雨、高潮などの被害が出ることも記載しました。また、台風は災害の中でも予測ができるので、前もって準備出来ることを知ってもらい、対策してもらえるようなパンフレット作りを心掛けました。

地震では、基礎知識と過去にあった歴史などを記載して、地震の恐ろしさを知ってもらい、今後発生すると思われる南海トラフ地震についても記載しています。地震保険など、外国人が知らない知識などもパンフレットに入れていきます。

津波はなぜ起こるのか、住吉区にどのような影響があるのかを記載しました。外国人の方に見やすいように「やってはいけない5箇条」で、津波の避難の時にしてはいけないことを記載しました。

火災では、まずはメンバー各自が火災の原因や被害、注意点、避難場所などの項目をそれぞれ担当し、基本情報を調べていき、調べた情報を整理して分かりやすくしました。

また、被災時のペットの避難方法や、避難場所、災害時に使われる「避難言葉」も記載するなど、住吉区の外国人に特化した内容で作成しています。

作成にあたり、地元の地方議員の方に相談したり、区役所や地域振興会を通して、町内会長に「災害時の準備をしているのか」や、「地域に住む外国人との交流があるか」などのアンケートも実施し、パンフレット作成に反映しています。また、実際に外国人にもアンケートを実施し、避難時に必要なもののリストや、各国の災害におけるマインドについても記載するなど、今までにないスタイルのパンフレットになりました。

<実績>

- ①日本赤十字社大阪府支部主催 青少年赤十字SDGs研究発表 代表に選出（2020）
- ②全校避難訓練を主催 「外国人向け防災パンフレット」制作発表会（2022）
- ③公明新聞から取材・掲載（2022）
- ④朝日新聞から取材・掲載（2022）
- ⑤ユースタイムジャパン（フリーペーパー）から取材・掲載（2022） など



「キャッチコピー・今後の目標」

いつ来てもおかしくない東南海地震。住吉区在住の外国人に直接パンフレットを読んでもらい、避難方法や避難場所、備えるべき持ち物を確認し、自助の大切さを知ってもらいます。

今後、インターネットにデータとして記載し、外国人にも暮らしやすい社会にしていくために、地域でも防災訓練・避難訓練を主催するなど、活動を展開していきたいです。

また、建国高校が見本になって、高校生が各地域で、被災時に活躍できる模範になっていきます。

○2022年4月

朝日新聞朝刊

「住吉区防災パンフレット作成の取り組みについて」

本校の生徒会活動が紹介されました。住吉区の防災パンフレット（日本語・英語・韓国語・中国語）を作成。作成までの経緯・調査内容などインタビューを受けました。



集合写真



活動団体プロフィール

2020年、パンフレット作成を考案。2021年4月からパンフレットの制作を目標に16名が志願し、地方議員や区役所、町内会を巻き込んで、パンフレット作成に着手。複数のメディアからも取材を受ける。2022年に完成予定。